

# 『慢性痛』

東洋鍼灸院 中島 亮二

筋骨格系の痛みは構造の異常ではない場合どこからくるのだろうか？

構造的異常

- 神経が押さえられているから痛い
- 神経が癒着しているから痛い
- 軟骨がすりへっているから痛い
- 椎間板がつぶれているから痛い
- 腰椎にすべりや分離があるから痛い
- 骨盤のゆがみがあるから痛い
- 仙腸関節のずれがあるから痛い
- 姿勢がわるいから痛い
- 筋力がないから痛い

痛みとはとても個人差の大きなもので、他人の痛みを推し量ることは困難。それは他の感覚と大きく異なる。

その他の痛みは？

⇒ 生理機能（自律神経、情動、習慣、条件反射、記憶、認知の異常）の異常によるもの？

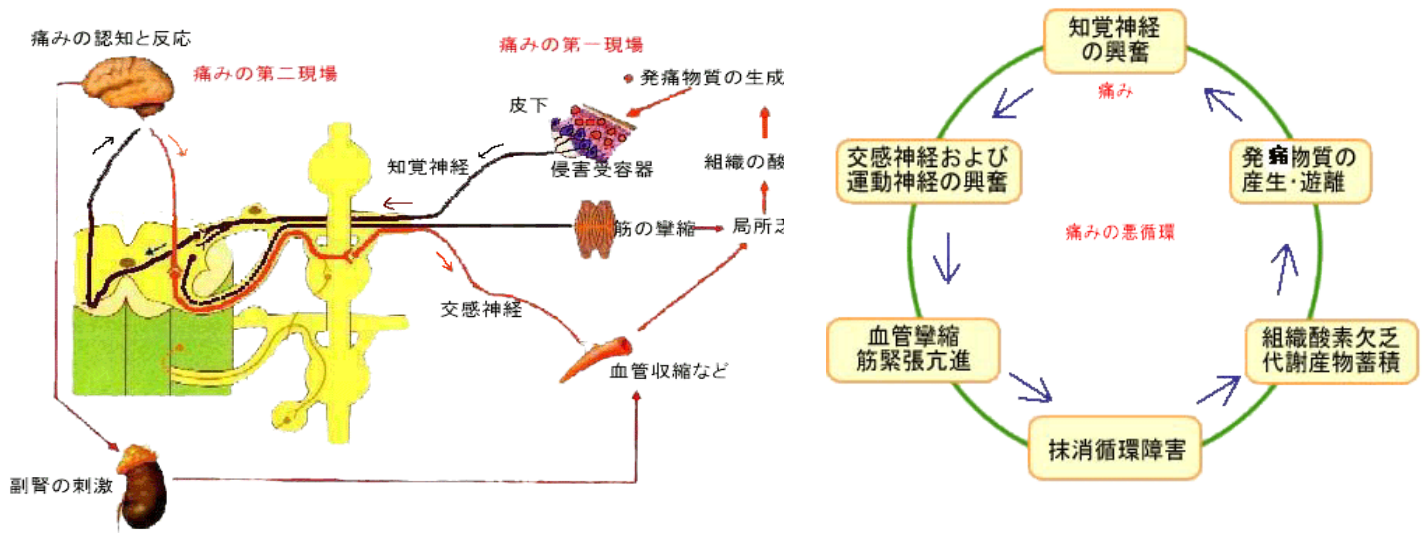
- レントゲンやMRIの画像所見と痛みは一致しない。
- 誘因なく痛みが始まることが多い。
- 痛みの場所が変わることが多い。
- 保存的治療で改善する。

⇒ 損傷の大きさと痛みの強さは比例しなく、損傷が治ると痛みも治るという保証はない。

⇒ 構造と痛み、損傷と痛みは分けて考える必要がある。

## 科学に基づいた説明

病態時の痛みは情動（心の動き：交感神経の緊張）がエネルギーとなる。



《東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター教授の花岡一雄氏（日本医師会雑誌「疼痛コントロールABC」より）》

痛みは電気信号。発痛物質が侵害受容器を刺激すると電流が生じます。それが神経繊維を通して脳に伝えられます。脳でその電気信号をいろいろな情報を通して「痛い」と判読しているのです。

神経繊維（電線）が傷んでいても電流が流れなければ痛みを感じません。電流が生じるにはエネルギーが必要です。外力がエネルギーとなるのは外傷初期の鋭い痛み。

## 鍼灸治療で疼痛が消えていくメカニズム

脳内麻薬の放出 → 血流促進・交感神経鎮静 → 筋肉への酸素・栄養供給が再開 → 筋弛緩・神経圧迫の解放